

高取町の教育

令和7年度全国学力・学習状況調査結果から見える高取町の子ども

1 調査の概要について

○ 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○ 実施日：令和7年4月17日（木）

○ 調査対象とする児童生徒：小学校第6学年、中学校第3学年

○ 調査事項及び手法

- ・ 質問紙調査：学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。
- ・ 教科に対する調査〔小学校：国語、算数、理科〕〔中学校：国語、数学、理科〕

○ グラフの見方

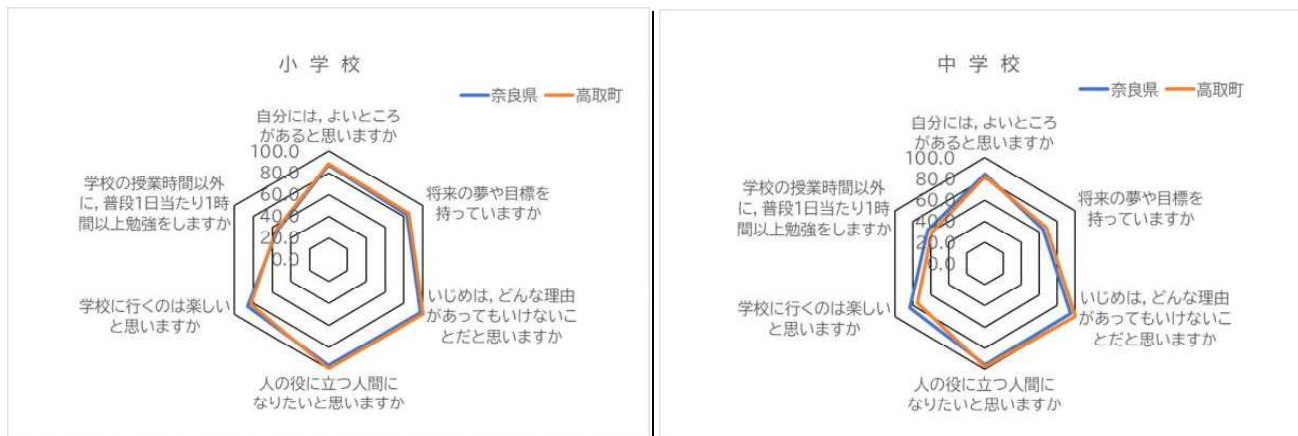
- ・ グラフの数値は素点（テストの点数）ではなく、正答率（最高100％）です。

オレンジ色のグラフが青色のグラフより大きい ⇒ 高取町の成績が県平均を上回っている。

オレンジ色のグラフが青色のグラフより小さい ⇒ 高取町の成績が県平均を下回っている。

2 調査結果について

○ 生活習慣や学習環境等に関する調査（抜粋）



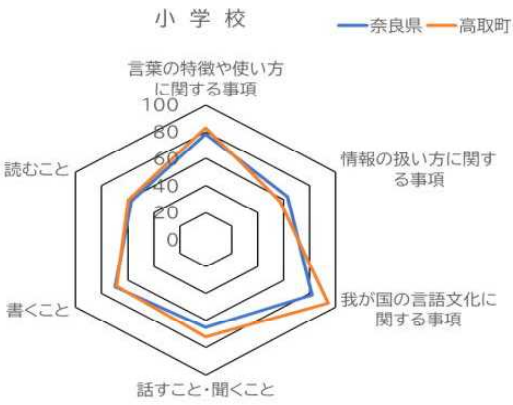
本町の児童・生徒の姿

◇小学校は、「自分によりよいところがあると思うか」の項目において、約90%の児童が肯定的に答えています。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という項目に対しては100%の児童が肯定的に答えていることから、自己を大切にしながら、他者や社会にも貢献しようとする児童像が伺えます。しかし、「学校の授業時間以外に、普段1日当たり1時間以上勉強をしますか」の項目には40%強の児童がしていないと回答しているため、家庭学習の促進を進める必要があります。

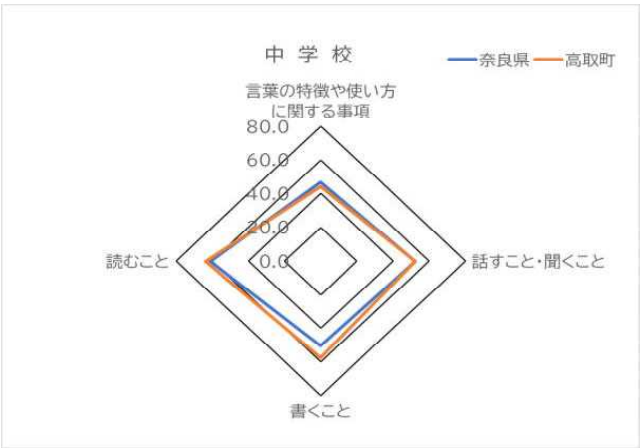
◇「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という項目では、上位回答が100%となっています。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」については、「当てはまる」と回答した生徒が全国平均とはほぼ同率で、県平均を上回っています。このことから、本校生徒はいじめに対する高い倫理観を持ち合わせているとともに、社会貢献への意欲が高く、他者を思いやる心が育まれていることが伺えます。

○ 学力に関する調査（抜粋）

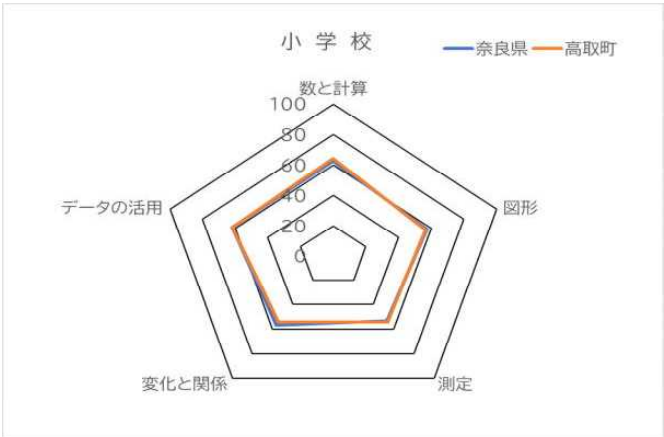
国 語



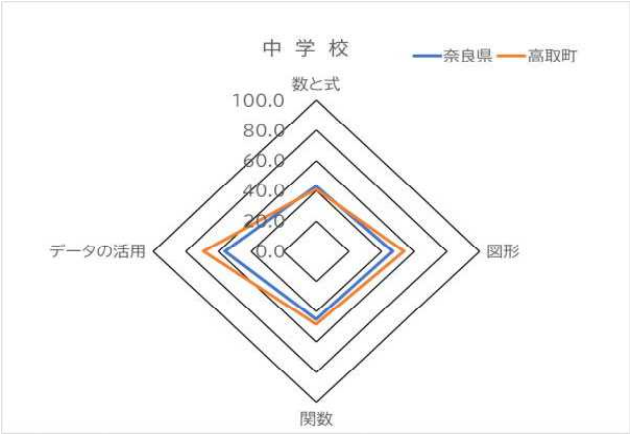
国 語



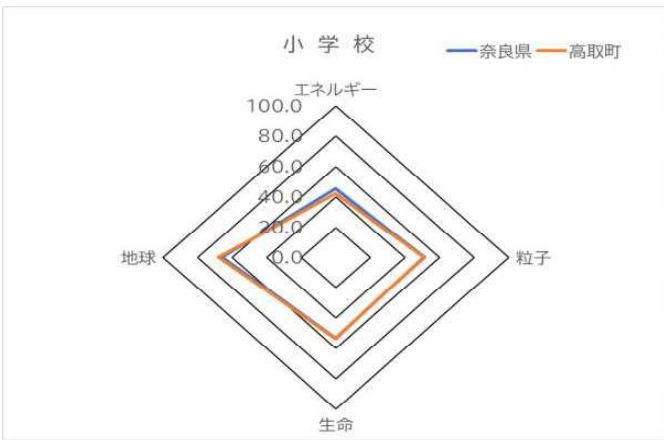
算 数



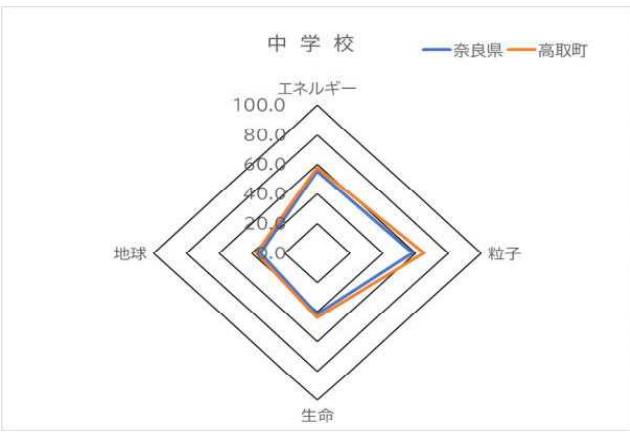
数 学



理 科



理 科



本町の児童・生徒の姿（学力）

◇小学校の国語は、「話すこと・聞くこと」「我が国の言語文化に関する事項」の項目では県平均を大きく上回っており、言語活動を中心とした授業改善の取組の成果であると考えられます。「情報の扱い方に関する事項」については、県平均を下回っています。この結果からは、グラフや表から読み取った事項をもとに文章との関連について答える問題に対して、資料から必要な情報を見つけ出し、整理して活用することに課題が見られます。

算数では、5領域中「データの活用」「数と計算」「図形」の項目では県平均とほぼ同程度であり、児童の基礎的・基本的な学力は概ね身に付いているといえます。しかし、「変化と関係」「測定」の基礎学力を応用して解く問題が多い項目に関しては県平均を下回っており、今後の課題であると考えられます。

理科では、B区分（生命・地球）は県平均を上回っていますが、A区分（エネルギー・粒子）に課題があります。科学的な疑問を持ち、実験・観察などの探究的な学習活動を通して理解を深める必要があります。

◇中学校の国語、数学、理科の3教科ともに、全般的に全国・県平均を上回っています。国語は「自分の考えをわかりやすく伝える表現の工夫」において若干の課題はありますが、「書くこと」に対する力が非常に高いことが分かります。

数学は「数学的な表現を用いて説明したり証明すること」について若干の課題はありますが、「データの活用」については高い値を示しています。

理科は「地球を柱とする領域」に課題が見られますが、「粒子を柱とする領域」においては平均以上の値を示しています。

3 課題に対する改善方法

◇国語科においては、資料や文章をもとに考えをまとめる学習活動を一層充実させる必要があります。そのためには、国語に限定せず、他教科でも情報を整理・比較・活用する機会の充実を図ります。

算数科においては、基礎・基本的な知識技能の向上を図るための取組の成果が現れています。また、応用的な問題にはAIドリルを活用しながら、個別最適な学びを行えるよう支援を行っていきます。

◇国語においては、文脈に即して正しく漢字を使ったり、内容を読み取り、より分かりやすく伝えるための表現力に課題が見られます。このことから、国語の授業はもとより、読書活動（図書館教育を含む）をさらに推進・実行するとともに、自分の考えをまとめる、伝たえる、発表するといった主体的な態度を育む学習時間をより確保します。

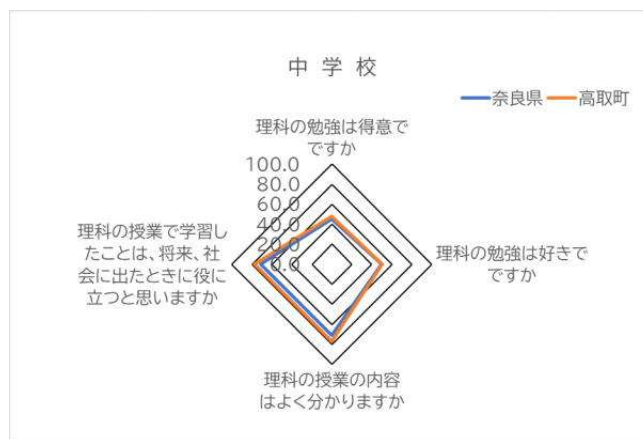
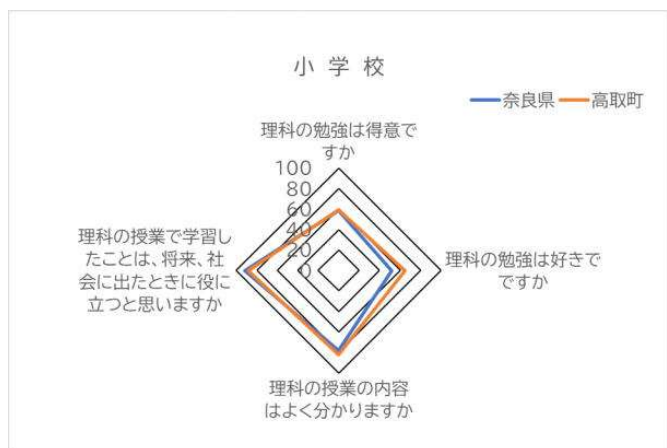
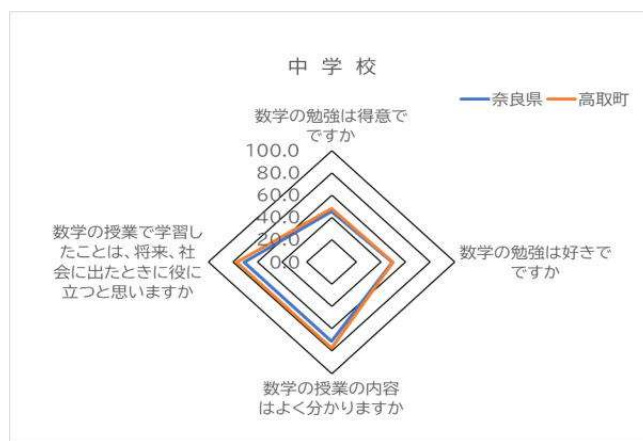
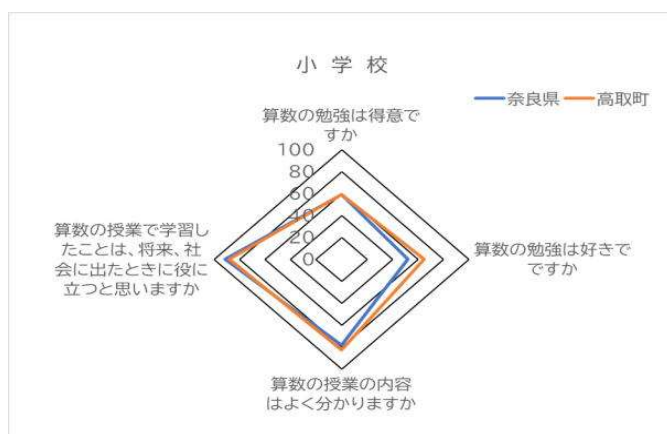
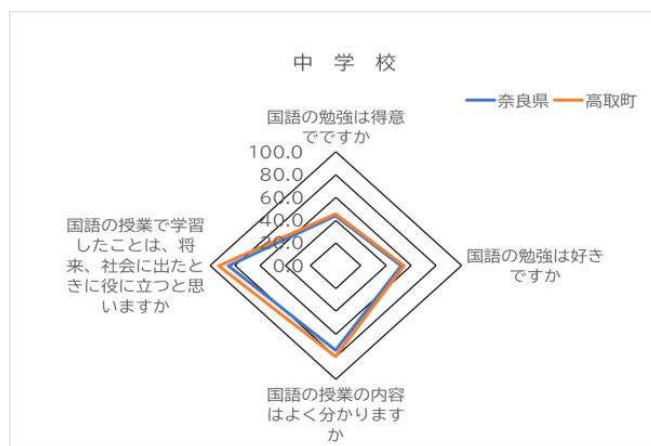
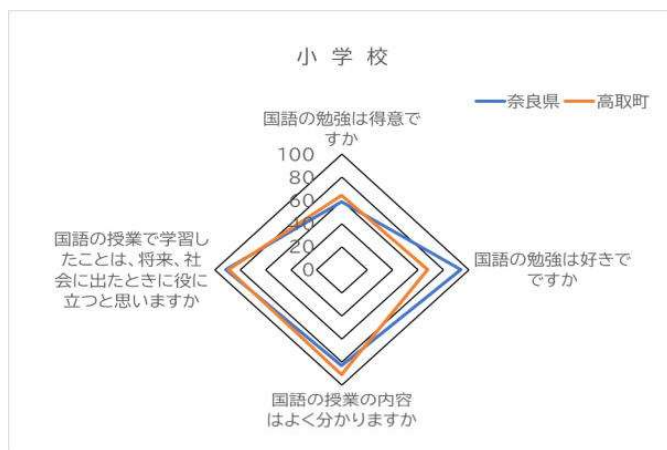
数学では、数学的に説明したり証明する部分に課題が見られます。知識においては高い値を示しているので、基礎内容の反復・復習を行い、応用力向上に力を入れていきます。

理科については、全般的にほぼ平均的な学力が見られます。数学と同様、学習内容の反復・復習を継続的行っていきます。

さらに全ての教科において、読解力向上の取組が必要であると考えています。

参考資料

● 学習状況に関する調査（抜粋）



◇小学校は算数と理科では「勉強は好きですか」の項目について県平均を上回っていますが、国語では大きく下回っています。しかし「将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の項目では全科目とも県平均と変わらない結果となっていることから、学習の意義は理解しつつも、意欲的に取り組もうとしていない姿が伺えます。

児童が主体的に学びに向かう態度を育成するために、学ぶこと自体を楽しいと感じられるような授業を展開できるようにします。

◇国語・数学・理科に共通して、全国・県平均に対してほぼ同じか、上回っています。生徒たちは勉強の大切さを理解し、コツコツと学習に取り組んでいますが、学んだことを日常生活に活用しきれていないため、さらに一歩踏み込んだ深い学びにつながっていないのではないかと考えられます。

○ 高取町の児童生徒の学習と生活の充実のために

これまでの継続的な取組により、小中ともに県平均と同様又は上回る結果となりました。今回の学力学習状況調査の課題となる点を踏まえ、これからの時代に求められる資質能力を身に付け主体的に学び続ける高取町の子どもたちの育成のために学習環境の充実を図り、以下の点に重点を置きこれまで以上に取組を進めます。

◇ 基礎的・基本的な学習内容を確実なものとし、思考力・判断力・表現力を高める指導の推進

- (1) 幼小中の連携を図り、子どもたちの課題を共有した一貫した取組
- (2) 学びの楽しさを感じ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業創造
- (3) ICTをより効果的に活用した個別最適な学びと協働学習の実践
- (4) 全ての学びにつながる読解力向上の取組
- (5) 読書の楽しみを知り、読書の質を高めるための読書活動の充実

◇ 子どもの自尊感情（自己肯定感、自己有用感）を育てる取組の推進

- (1) 個に応じた学びの展開と「分かる授業」づくり
- (2) 自信や成就感、自尊感情を持たせるために、道德教育や特別活動などの取組の充実
- (3) 将来展望を持ち自立に向けたキャリア教育の推進

◇ 子どもの生活習慣を見直し、家庭学習や読書習慣の定着を図るために家庭との連携を推進

- (1) 基本的な生活習慣や生活リズムの確立の大切さの啓発
- (2) 「家庭学習の手引」等を活用した家庭学習や自主的・計画的な学習の意識付け
- (3) テレビ、ゲーム、スマートフォンなどの使い方の家庭のルールづくりの啓発